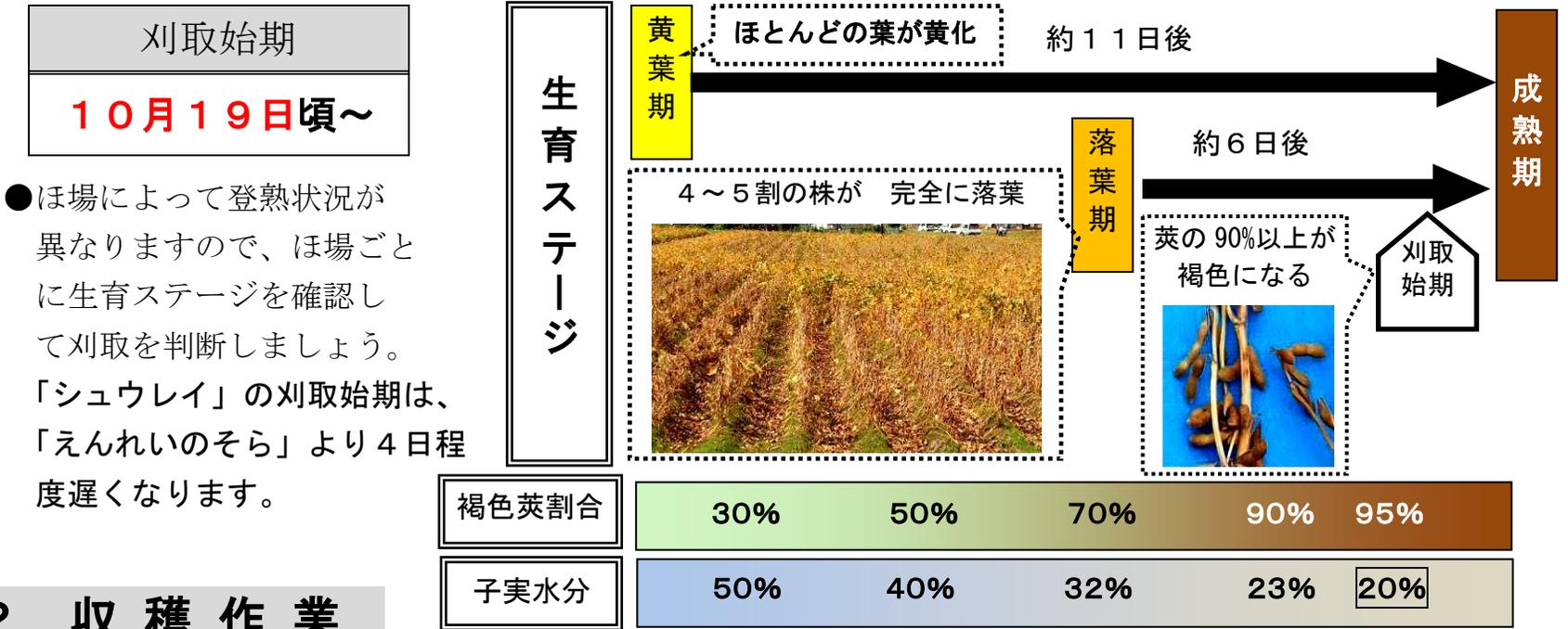


まもなく大豆の収穫時期です。大きな雑草を早めに抜き取り、ほ場ごとに成熟状況を確認し、適期内の収穫に努めましょう。

1. えんれいのそらの刈取始期

- ・下図を参考にほ場ごとの葉の黄化や落葉状況を確認して、成熟期の目安をつけ、作業計画を立てましょう。
- ・莢の熟色を確認し、莢の90%以上が褐色になった頃（子実水分22%以下）から刈り始めましょう。
- ・刈遅れは、しわ粒や腐敗粒が増加します。茎の色みが若干残っていても、莢の色を優先し収穫しましょう。

刈取始期の目安（えんれいのそら）



- ほ場によって登熟状況が異なりますので、ほ場ごとに生育ステージを確認して刈取を判断しましょう。「シュウレイ」の刈取始期は、「えんれいのそら」より4日程度遅くなります。

2. 収穫作業

- ・収穫前に大型雑草や青立ち株の抜き取りを徹底しましょう。
- ・帰化アサガオ類・イヌホオズキなどの種子を残さないよう、抜き取った雑草は放置せず、ほ場外で適切に処分しましょう。
- ・収穫時刻は午前10時～午後4時頃を目安とし、莢が乾いていることを確認してから収穫を開始しましょう。
- ・収穫時に土をかき込まないようにコンバインの『刈取り高さ』は地際から10cm程度に調整しましょう。
- ・『作業速度』は0.4～0.8m/秒程度とし、大豆の生育量が大きい場合は、速度を落とすなど、コンバインのつまりを防ぎましょう。

3. 乾燥・調製

- ・急激な乾燥は、しわ粒や皮切れ粒の発生原因となります。乾燥機の送風温度を「気温+5℃以内」、平均毎時乾減率は0.3%/時以下とし、子実水分14%に仕上げましょう。
- ・調製は適正な流量を守り、被害粒の除去に努めましょう。

4. 次年度対策

①排水対策

- ・次年度の大豆作付予定ほ場は、年内に額縁排水溝を設置しましょう。また、心土破碎や弾丸暗渠の実施により、排水性の改善を行いましょ。

②土づくり

- ・発酵鶏ふん等の堆肥の施用や緑肥作物（レンゲ等）の作付け・すき込みにより、土壌中の腐植や加里等の不足養分を補給しましょう。



写真 額縁排水溝に連結した暗渠

寒江大豆乾燥調製施設の荷受けは、10月19日(木)から行います。

～秋の農作業安全運動実施中(10月20日まで) 秋の土づくり運動(11月15日まで)～